

※本資料は、一般社団法人 教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

きゅうせいきゆうれいせんめい  
九成宮醴泉銘 1  
(教科書 36 ～ 39 ページ)

| 名前 | 年 | 組 | 番 | 学習日 | 月 | 日 |
|----|---|---|---|-----|---|---|
|    |   |   |   |     |   |   |

1 「九成宮醴泉銘」の筆者と制作された時代、および制作年を答えましょう。(教科書 36 ページ)

筆者 ( ) 時代 ( ) 制作年 ( ) 年

2 「九成宮醴泉銘」のイメージ(風趣)を、次のA～Cから選びましょう。(教科書 36 ～ 39 ページ)

- A 抑揚があり、軽快な書風。 B 力強く、たくましい書風。 C 鋭く、厳格な書風。

3 「九成宮醴泉銘」の用筆や字形の特徴を捉えましょう。(教科書 36 ～ 39 ページ)

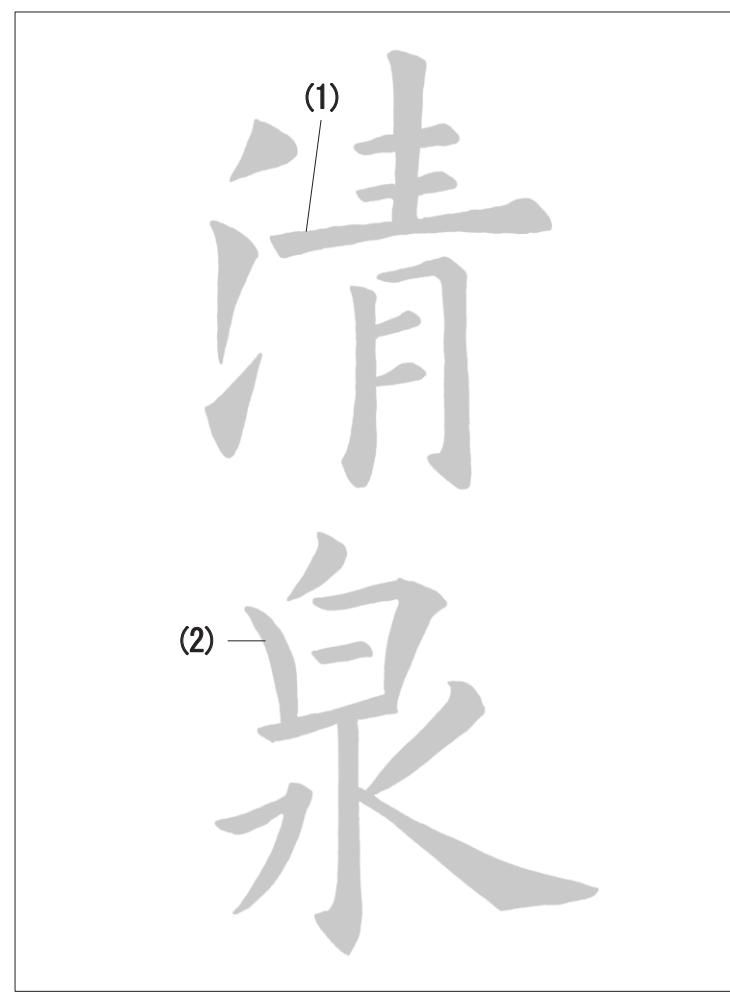
①上の臨書手本に見られる、用筆や字形の特徴を書き込みましょう。

(1)直線的で ( ) 点画

- ・各点画は角度をつけて起筆(きひつ)する。
- ・転折は鋭角的に書く。

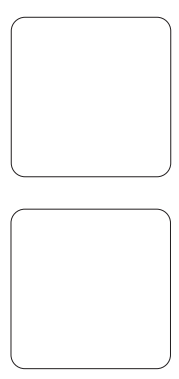
(2)縦長で ( )

- ・横画は等間隔に配置する。
  - ・向かい合う縦画が内側に ( )
- ように書く。

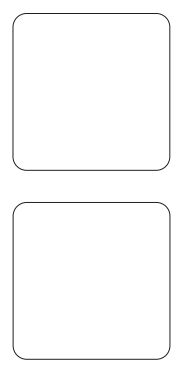


②「直線的で鋭い点画」、「縦長で背勢(せい)が表れている」という文字や部分を、教科書 36 ・ 37 ページからそれぞれ抜き出しましょう。

直線的で鋭い点画 (例)



縦長で背勢 (例)



4 次の活動例を参考に、右の臨書手本を分析し、特徴を捉えて臨書しましょう。(教科書 39 ページ)

(例)

- ・中心線を書き込む。
- ・骨書き(点画の中心線のこと)を書き込む。
- ・補助線を引いたり、特徴的な部分を丸で囲んだりして、気づいたことを書き込む。
- ・外形を□、△、□などで囲む。
- ・籠字(かごじ)(点画の輪郭を囲むこと)をとる。

◎ 自己評価 A:よくできた B:できた C:もう一步

- ・「九成宮醴泉銘」の字形の特徴を理解し、書風や全体の雰囲気をつかむことができましたか。( )
- ・書風と表現要素との関わりを、主体的に分析することができましたか。( )